

競技注意事項

Instructions for the Competition

1. 規則について

本大会は 2020 年度日本陸上競技連盟規則並びに本大会申し合わせ事項・リレー申し合わせ事項・競技注意事項により実施する。

2. 練習について

(1) 密集・密接の回避

ウォーミングアップ及び練習は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、個別に行うこと。

(2) 前日練習について

前日練習は個人利用とする。怪我に関しては自己責任とし、主催者側は一切責任を負わない。

(3) 競技前練習について

本競技場内における競技前の練習は、競技開始 20 分前までとし、すべて競技役員の指示に従って行うこと。

(4) 補助競技場について

①補助競技場については、9月18日（金）～9月20日（日）の7:00 から 17:00 まで占有使用とする。ただし、上記の時間外については一般開放となり、一般の方も利用するため、周りに注意を払い安全に留意して各自が責任を持って利用すること。一般開放時の利用に関して本連盟は責任を負わない。

②役員の指示に従い安全に留意すること。

③補助競技場は、左回りとし、トラック内の逆走は禁止する。

④ハードルやスターティングブロックを使用する際は周りに注意を払い、安全に留意すること。ただし、占有使用の終了時刻になり次第、主催者が用意したハードルやスターティングブロックは本競技場へ返却するため、それ以降の使用はできない。なお、主催者が用意したハードルやスターティングブロックの台数は限られている。

(5) 投てきの練習について

①公式練習については、投てき審判の指示に従い、競技開始前に行うこと。

②助走練習、投てき練習時には、ソーシャルディスタンスを確保するために、競技役員が 1 人ずつ順番に呼び出す。

③新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、滑り止め(炭酸マグネシウム)については、共有しない方法で実施する。そのため、主催者は、滑り止め(炭酸マグネシウム)を用意しない。競技者は必要に応じて必ず滑り止め(炭酸マグネシウム)を持参し、使用すること。なお、松ヤニの使用は禁止する。

④補助競技場での砲丸・円盤・ハンマー・やりの使用を禁止する。

3. 競技場使用上の注意

- (1) 更衣室とシャワールームの使用を禁止する。
- (2) 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、声を出しての応援は固く禁止する。
- (3) 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、スタンドでの部旗・横断幕の掲出は禁止する。
- (4) 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、審判・補助員、参加申請した指導者・コーチ以外のメインスタンドへの立ち入りを禁止する。なお、メインスタンドは、審判・補助員の待機場所として開放する。
- (5) 大会当日中の大学ごとの場所取りは厳禁とする。芝スタンドとバックスタンドは、個人の待機場所として使用を認めるが、他の競技者との距離を十分確保すること。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、競技者は、競技時間に合わせて競技場に立ち入り、競技終了次第帰ること。競技場退出時には、すべての持参物を持ち帰ること。
- (6) 開門前、閉門後に許可なく競技場内、スタンド内に侵入している競技者を発見した場合、厳重に注意し、その競技者の以降の出場を認めない場合がある。
- (7) シート固定等で、競技場内においてテープ類（ガムテープ、養生テープ等）を使用することは認めない。紐やスズランテープの使用は許可する。
- (8) 競技場は全天候型ウレタン舗装であるため、使用するピンの長さは、トラックについては7mm以下、フィールドについては9mm以下とする。
- (9) 当該競技の出場者以外はトラック・フィールド内に立ち入ってはならない。注意に従わない場合、同校の競技の出場を認めない場合がある。
- (10) 競技場内において競技者は助力とみなされるビデオ、カセットリコーダー、ラジオ、CD・MD プレーヤー、トランシーバーや携帯電話、スマートフォンもしくはそれに類似するものの使用・所持を禁止する。勧告を受け入れられない場合は失格となる。なお、その他競技者に対する助力については競技規則第144条を適用する。
- (11) 医務室は競技場内に設ける。なお、大会期間中において起こった怪我に対しては主催者側が応急手当を行うが、それ以降の治療に関しては一切責任を負わない。ただし、出場者は原則として、スポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。必ず保険証のコピーを持参すること。なお、新型コロナウイルス感染症はスポーツ安全保険の適用対象外である。
- (12) メインスタンド下の競技場内通路は関係者以外の侵入を禁止する。
- (13) スパイクで競技場内通路を通行することを禁止する。なお、競技場内通路は正面出入口からゴール地点に向かって一方通行である。
- (14) 貴重品の管理は各個人で責任を持って行うこと。盗難・紛失について主催者は一切責任を負わない。拾得物があった場合は、テクニカルインフォメーションセンターにて一時保管をする。
- (15) ゴミは各個人が責任を持って持ち帰ること。
- (16) 競技場内でのすべての電源の使用を禁止する。

- (17) 開閉門時間は以下の通りである。ただし、予告なく変更する場合がある。また、下記の記載の開門時間より早く競技場内には立ち入らないこと。

期日	開門時間	閉門時間
9月18日(金)	8:00	17:30
9月19日(土)	8:00	※
9月20日(日)	8:00	※

※本大会のみに出場する競技者は競技終了後、速やかに帰ること。

4. 招集について

- (1) 招集の方法について

- ①招集所は、第1コーナー外側に設置する。
- ②競技者は出場種目の招集開始時刻になり次第、招集所でシューズ、スパイク、ナンバー、商標の確認を受けること。※シューズに関しては、競技注意事項別記の「靴底の厚さに関するルール改定」を必ず確認すること。
- ③スタート地点到着後に、各競技現地で最終コールを行う。

- (2) 代理人による招集は認めない。

- (3) リレーのオーダーについては、メンバー及びオーダーの変更の有無に関わらず、ラウンド毎にオーダー用紙(テクニカルインフォメーションセンターに用意)をテクニカルインフォメーションセンターと招集所に提出すること。提出締切は招集完了時刻の1時間前とし、遅れた場合出場を認めない。怪我等によるこれ以降の変更は、主催者の任命した医務員の判断がない限り認められない。また、招集開始時刻になり次第、全員で招集を受けること。

- (4) 招集完了時刻に遅れた競技者は出場を認めないので十分に注意すること。

- (5) 商標について2020年度陸上競技審判ハンドブック「競技会における広告・商標の規定」に従い、招集所にてチェックを行う。2020年度より商標に関する規定が変更になったので注意すること。

- (6) 招集時間は競技日程を参照すること。

	トラック種目	棒高跳	フィールド種目
招集開始時刻	競技開始 30 分前	競技開始 90 分前	競技開始 60 分前
招集完了時刻	競技開始 20 分前	競技開始 80 分前	競技開始 50 分前

5. 不出場について

競技参加者の不出場については、大会の運営の円滑を期するため極力避けること。やむを得ず不出場となる場合は以下の要領で申し出ること。

- (1) 大会3日前(9月15日)までに不出場が判明している場合は、本連盟ホームページより不出場届をダウンロードし、必要事項を記入の上、9月15日(火)18時までに本連盟事務所に提出すること。(FAXのみ可)
- (2) 上記期日以降にやむを得ず不出場となる場合には、不出場届(テクニカルインフォメーションセンターに用意)に必要事項を記入の上、招集所及びテクニカルインフォメーションセンターに提出し、承認を得ること。

6. ナンバーカードについて

- (1) ナンバーカードは 2020 年度九州学連指定の登録ナンバーカードを着用すること。
- (2) ナンバーカードはユニフォームの胸と背に確実につけること。ただし、跳躍競技に出場する選手は胸・背のいずれかにつければよい。ナンバーカードの折曲げは禁止する。
- (3) トラック競技は写真判定機を使用するため、トラック競技者は主催者の用意する腰ナンバーカードを右腰やや後方に、数字が見えるようにつけること。**ただし、男女 3000mSC、男女 10000mについては両腰につけること。**腰ナンバーカードは使い捨てのものを使用する。そのため、フィニッシュ後、係員に返却する必要はない。※第 143 条 7・8・9 項を参照のこと。

7. 競技の抽選・番組編成について

- (1) トラック競技の準決勝以降の組み合わせは、主催者が公平に抽選し、決まり次第、本プログラム P34 に掲載する大会速報サイトにて発表を行う。記録掲示は行わない。
- (2) トラック種目における次のラウンドへのプラス選出の際、同記録が複数出た場合、写真判定により 1000 分の 1 秒まで拡大し、「着差あり」まで判定する。それでも判定できない場合には、本人または代理人によって公平に抽選を行い、決定する。ただし、1500 m の場合は該当者全員が次のラウンドに進出できる。※競技規則第 167 条を参照のこと。
- (3) 写真判定機故障の場合、その種目の当該ラウンドを全組、手動計時に変更する場合がある。

8. トラック種目について

- (1) 不正スタートに関しては、競技規則「第 162 条 7」の適用により失格とする。
- (2) スタートの合図は **“On Your Marks” “Set”** で行う。
- (3) 短距離種目では競技者の安全のため、フィニッシュ後も自分のレーンを走ること。
- (4) リレー種目について
 - ①各大学同一のユニフォームを着用すること。この時、デザインが同じものを着用すれば、スパッツ・ランニングパンツの区別は設けない。
 - ②全ラウンドにおいて、最初に編成して申し込んだメンバーの中から**最低 2 名は出場しなければならない。**それ以外の 2 名はプログラムに記載のある選手であれば、予選ラウンドから出場できる。
 - ③次ラウンドにおける交代は 2 名以内でなければならない。なお、出場チーム数の都合上、単一ラウンド(決勝のみ)となった場合、次のラウンドに進んだものとする。※第 170 条 10 項参照のこと。
 - ④4×100m リレーに使用するマークテープは本連盟が用意したものを使用すること。マークテープは招集所にて配布する。※第 170 条 4 項参照のこと。
- (5) 男子 10000m については、給水を設置する。
- (6) 男子 10000m については下記の設定時間でゴールに達しない選手は競技者がどの段階にあっても速やかに競技を中止させる。

男子	
10000m	35 分 00 秒

- (7) 男子 10000m については当日の状況を見て、インレーン、アウトレーンの振り分けを行う。役員の指示に従うこと。
- (8) 男子 3000mSC についてはランニングシューズでの出場を認めない。

9. フィールド種目について

(1) 跳躍種目のバーの上げ方は原則として以下の通りとする。

種目・種別		練習	バーの上げ方
走高跳	男子	1m70、2m00	1m75-1m80-(5cm刻み)-2m10-(3cm刻み)
	女子	1m40、1m65	1m45-(5cm刻み)-1m70-(3cm刻み)
棒高跳	男子	3m70、4m50	3m50-(20cm刻み)-4m50-(10cm刻み)
	女子	2m70、3m10	2m40-(20cm刻み)-2m80-(10cm刻み)

※同成績の場合は競技規則第181条8項を適用する。

- (2) 男子走幅跳は2ピット、女子走幅跳は1ピットで競技を行う。
- (3) 男子三段跳は2ピット(11m、13m)、女子三段跳は1ピット(10m)で競技を行う。ただし、女子三段跳は状況に応じて2ピットに変更する可能性がある。
- (4) 男女走高跳および男女棒高跳は1ピットで競技を行う。
- (5) ジュニア規格の種目については各種目、一般規格と同時進行で競技を進め一般・ジュニアともにそれぞれトップ8を選出して決勝ラウンドを行う。
- (6) フィールド種目の長さを競う競技は、前半2回後半3回の試技(2回の試技後ベスト8とし3回の試技を行う)、高さの競技は跳躍回数を8回までに限定して競技を行う。
- (7) 2019年4月1日より跳躍に関する規定が変わったので十分注意すること。日本陸連「第180条総則 フィールド競技 試技時間」(陸上競技ルールブック2019 254ページ)～(前略)～つぎの試技時間は、通常の場合超えてはならない。試技時間を越えたら第180条18を除き、無効試技として記録する。

単独種目

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	1分	1分	1分
2～3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—
連続試技※※	2分	3分	2分

※4人以上または各競技者の最初の試技

※※走高跳・棒高跳では、残っている競技者が2人以上、同一の高さのみ適用する。

10. 用器具について

- (1) 用器具はすべて競技場備え付けのものを使用する。ただし、棒高跳用のポールについては、競技場備え付けのものがいないため、個人のものを持参すること。さらに、やり、円盤、砲丸、ハンマーについては、検定を受けて合格したものは、個人のものを使用してよい。各自が持ち込んだ棒高跳用のポール及びやり、円盤、砲丸、ハンマーについては、その他の競技者にも使用させなければならない。そして、持参した棒高跳用のポール及

びやり、円盤、砲丸、ハンマーは、競技当日の招集開始時刻から招集完了時刻までに 100m スタート付近の用器具倉庫にて検査を行う。ただし、使用の際の破損などによる事故発生の場合、使用した当該競技者が責任を負うものとする。この場合、主催者はその責任を負わない。

- (2) 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、滑り止め(炭酸マグネシウム)については、共有しない方法で実施する。そのため、主催者は、滑り止め(炭酸マグネシウム)を用意しない。競技者は必要に応じて必ず滑り止め(炭酸マグネシウム)を持参し、使用すること。なお、松ヤニの使用は禁止する。

11. 抗議について

- (1) 抗議は競技規則第 146 条に基づき、アナウンスで正式に結果が発表されてから 30 分以内に次のラウンドが行われる種目では、その結果が発表されてから 15 分以内に競技者自身または代理人が総務に申し出る。
- (2) 審判長の裁定不服の場合には、その競技者に代わる責任者より上訴申立書と預託金(¥10,000)を添えて、正式な手続きをとること。この預託金は抗議が受け入れられなかった場合、没収される。

12. 各書類提出先について

書類名	配布場所	提出場所・依頼先
不出場届	テクニカルインフォメーションセンター	招集所・テクニカルインフォメーションセンター
リレーオーダー用紙	テクニカルインフォメーションセンター	招集所・テクニカルインフォメーションセンター
記録証明書	テクニカルインフォメーションセンター	テクニカルインフォメーションセンター
上訴申立書	学連本部	学連本部(要預託金)

13. 商標について

2020 年度陸上競技審判ハンドブック「競技会における広告・商標の規定」に従い、招集所にてチェックを行う。2020 年度より商標に関する規定が変更になったので注意すること。

14. その他

- (1) 記録証明書を希望する競技者は、300 円を添えてテクニカルインフォメーションセンターまで申し込むこと。
- (2) 競技場内での写真、ビデオの撮影については選手のプライバシー及び肖像権を保護するため大会関係者及び主催者に許可された者以外の撮影は禁止する。盗撮防止のため、大会役員が声をかけることがあるが、その場合は速やかに許可証を提示すること。また、許可なく撮影している者を発見し次第、厳重に処分する。
- (3) 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、練習及び招集、競技中など本大会に関わるすべての行為について、競技者への付き添いを禁止する。
- (4) 競技結果等は記録処理終了後に随時、本プログラム P34 に掲載する大会速報サイトに

て発表を行う。記録掲示は行わない。

- (5) 主催者は、個人情報の保護に関する法律及び関連法令等を厳守し、個人情報を取り扱う。なお、取得した個人情報は、大会の参加審査、プログラム編成および作成、記録公表、その他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。
- (6) ポールおよびやり返送について
返送を希望する場合は、テクニカルインフォメーションセンターにて最終日の13:30までに輸送の手続きを行うこと。
- (7) 天候や出場人数などの影響でタイムレース決勝となった場合、本来の決勝時刻で競技を開始する。また、変更する場合もある。
- (8) 加盟校は学生審判補助員を派遣しなければならない。

※以上の内容以外でも、特別に役員から指示があった場合、必ず従わなければならない。

競技注意事項別記
靴底の厚さに関するルール改定

WA のルール改定に伴い、本連盟主催競技会についても以下に示す基準を満たしていないシューズを身に着ける競技者の出場を認めない。

種目	ソールの最大の厚さ (TR5.5、注意(i)、(ii)、(iii) 及び TR5.5 の図(a)並びに(b) TR5.13.3 に基づく)	補足
800m 未満のトラック種目 (ハードル種目を含む)	20mm	リレーにおいては、各走者の距離で本規則が適用される。
800m 以上のトラック種目	25mm	リレーにおいては、各走者の距離で本規則が適用される。

TR5.13 注意

- (i) 規則 143 条(TR5)13(a)の「1つの剛性プレートまたはブレード」は、複数のパーツで構成される場合があるが、それらのパーツは、平行ではなく（例：個々のパーツは互いに上に積み重ねない）、1つの平面に連続して配置しなければならない。※現行のルールブックに掲載の内容と変更なし。

競技注意事項別記 加盟校の皆様へのお願い

本年度は大会要項（別記）でお示しした通り、新型コロナウイルス感染予防対策に則り、競技会を運営していくことを了承の上、大会にご参加ください。また、各大学が示している課外活動に関するガイドライン等を遵守し、参加について判断するようお願いいたします。なお、新型コロナウイルスの感染防止対策には万全を期しますが万が一、感染してしまったとしても、主催者は責任を負うことができませんのでご了承ください。

大会要項（別記）の「第48回九州学生陸上競技選手権大会 新型コロナウイルス感染症への留意点」に加え、以下の留意点につきまして遵守していただきますよう、ご協力をお願いいたします。

1. 体調管理について

(1) 大会への参加について

各大学は、参加者全員（審判補助員、競技者、参加申請した指導者・コーチ）に大会前と大会後の健康チェックシートを記入させ、体調の把握をしてください。なお、体調不良者は競技会に参加させず、競技場にも来場させないでください。

(2) 競技会参加のための健康チェックシート【提出用】について

大会当日の学校受付時に、各大学は大会主催者が用意した「競技会参加のための健康チェックシート【提出用】」を、テクニカルインフォメーションセンターに提出してください。提出がない場合は、競技会への参加を認めません。

(3) 競技会参加のための健康チェックシート大会前【保管用】について

各大学は、2週間分の「競技会参加のための健康チェックシート大会前【保管用】」を作成、収集し、本連盟が提出を求めた場合には、遅滞なく提出できるようにしてください。なお、最後に記入した日から最低1カ月間は各大学で保管してください。

(4) 競技会参加のための健康チェックシート大会後【保管用】について

競技会終了後、2週間以内に発熱などの症状があった場合、保健所、主催者へ報告するようお願いいたします。なお、2週間分の「競技会参加のための健康チェックシート大会後【保管用】」に各自記入し、最後に記入した日から最低1カ月保管してください。

2. 参加者が競技を行う際の留意点

(1) 基本的注意事項

- ① 招集所では他の競技者とのソーシャルディスタンスを確保し、マスクを着用して招集を受けること。
- ② 競技場内外を問わず、唾や痰を吐く行為は行わないこと。
- ③ タオルの共用はせず各自で持参すること。
- ④ 待機場所では、周囲の人とソーシャルディスタンスを確保し大声で会話をしないこと。
- ⑤ 競技中などに競技者が倒れた場合は直接触れることをせず、医務室や大会本部へ連絡すること。ただし、緊急を要する場合は、その限りではない。

(2) トラック競技

- ① レース中はマスクを着ける必要はないが、招集中・移動中・待機中は着用すること。な

お、マスク着用による熱中症にも注意をすること。

②レース終了後の手洗い、洗顔等を徹底すること。

(3) フィールド競技

①待機場所における競技者同士のソーシャルディスタンスを確保すること。

②投てき器具については共用となるので、使用後は手指消毒を徹底すること。また、競技中に不用意に手で顔を触らないよう注意すること。なお、終了後には入念な手洗いや手指消毒を行うこと。

③助走練習、投てき練習時には、ソーシャルディスタンスを確保するために競技役員が1人ずつ順番に呼び出すので、その指示に従うこと。

④競技者同士の会話は原則として禁止する。試技以外の待機中は、必ずマスクを着用すること。なお、マスク着用による熱中症にも注意をすること。

3. その他の留意点

(1) マスク等の準備

入場時に競技会参加者がマスクを準備しているか確認する。入場時にマスクを着用していない者は、競技場内への入場を許可しないので注意すること。参加者が、運動・スポーツを行っていない間、特に会話するときには、マスクの着用を指示する。

(2) 手洗いの実施

①手洗いは、30秒以上行うこと。石鹸は競技場にも準備する。

②手をふくためのタオル等を共用しないこと。

③手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒剤を使用しこまめに消毒すること。競技場にも準備するが、できるだけ各自で持参すること。

④手洗い場所は、メインスタンド下の競技場内通路にある洗面所とメインスタンド裏側のコンコースにある洗面所とする。手洗い場で密集することがないように注意すること。

(3) 洗面所（トイレ）の使用

①トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー）を使用した場合は、こまめに手洗いをすること。

②トイレの便器に蓋がある場合は、必ず蓋を閉めて汚物を流すようすること。

③手洗いは、石鹸等を使用し30秒以上行うようにすること。

④手をふくためのタオル等は各自で準備すること。

(4) その他

①宿泊施設や公共交通機関等の移動においても3密の回避など感染予防を徹底すること。

②競技場への立ち入りについては、別紙の「競技場立入制限」を参照すること。

③コーチがコーチングエリアから競技者に向かって話す際は、マスク着用の上、話すようにすること。

④大会要項（別記）では、競技者の待機場所として、メインスタンド裏側のコンコースが使用できることの記載があるが、大会運営上、待機場所としての使用は認めない。

⑤競技会へ出場する選手のみ参加とするため、応援、付き添いのためだけの者は来場させないこと。なお、集団での場所取りや声を出しての応援は固く禁止する。

競技注意事項別記

競技場立入制限

本競技会は、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、無観客で開催する。そのため、本競技会では、リスト ID を用いて入場制限を行うこととする。

1. 入場について

- ・入場の際の受付は下記の会場図に示している正面出入口 C で実施する。
- ・その日初めて競技場に立ち入る際は、受付で所属大学、役職等（審判、補助員、競技者、指導者・コーチなど）を係員に回答のうえ、検温をその場で行い、リスト ID を受け取ること。
- ・その日の受付以降は、リスト ID が確認できれば検温や所属先の確認は行わずに入場できる。
- ・リスト ID の色によって立ち入ることが出来ない場所があるため注意すること（立入可能箇所、入口については下に示す）。
- ・マスクを着用していない場合は、入場を許可しない。
- ・37.5℃を超える場合は入場を断る場合がある。

2. 各種リスト ID の区分と立入可能場所について

- ・リスト ID 黄（陸協審判、学連役員）
競技場内全ての立ち入りを可能とする。
- ・リスト ID 青（指導者・コーチ）
メインスタンド、芝スタンド、バックスタンドへの立ち入りが可能である。ただし、コーチングはコーチングエリア内で行うこと。グラウンドへの立ち入りは禁止する。
※事前に加盟校で申請があった方のみ入場可能とする。学生がコーチングする場合も含めるので、参加校は注意すること。
- ・リスト ID 緑（学生審判・補助員）
メインスタンド、グラウンドへの立ち入りが可能である。芝スタンド、バックスタンドへは立ち入りを不可とする。
- ・リスト ID 赤（競技者）
芝スタンド、バックスタンド、グラウンドへの立ち入りが可能である。メインスタンドへは立ち入りを不可とする。

3. 各場所への入口について

メインスタンド、洗面所 …下図 B から入場可能

芝スタンド、バックスタンド …下図 A、E より入場可能

グラウンド …下図 D より入場可能

審判控室、TIC、洗面所 …下図 C より入場可能

(TIC へ御用の方はできる限り少人数で来ること。どのリスト ID でも入場可能とする。)

会場図

